

「水防災意識社会 再構築ビジョン」
に基づく取組について

水防災意識社会 再構築ビジョン

H27.12.11 国交省記者発表

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村（109水系、730市町村）において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

<ソフト対策> ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

<ハード対策> ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

<危機管理型ハード対策> P4

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進
いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

<被害軽減を図るための堤防構造の工夫（対策例）>

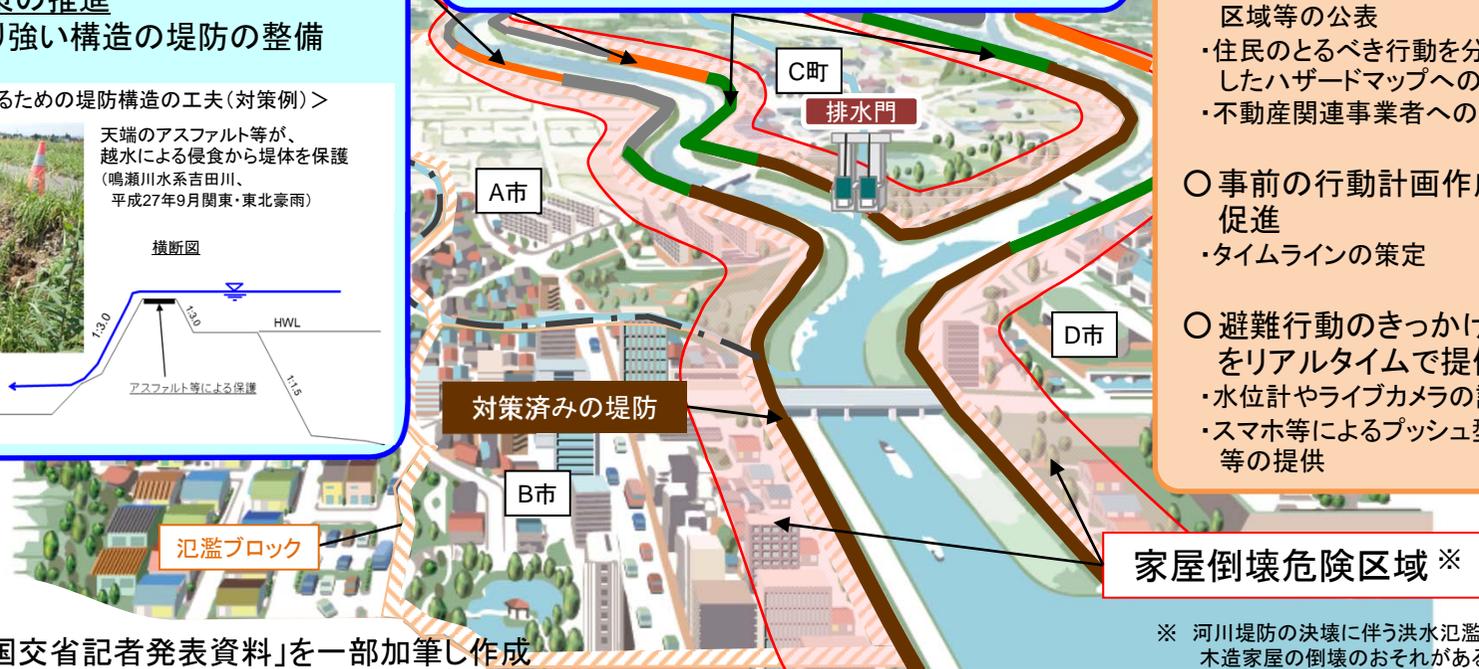


<洪水を安全に流すためのハード対策> P3

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

<住民目線のソフト対策> P2

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
 - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表
 - ・住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
 - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
 - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
 - ・水位計やライブカメラの設置
 - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



*「H27.12.11 国交省記者発表資料」を一部加筆し作成

※ 河川堤防の決壊に伴う洪水氾濫により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

住民目線のソフト対策

H27.12.11国交省記者発表

○水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

リスク情報の周知

○立ち退き避難が必要な家屋倒壊危険区域等の公表
⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約70水系、平成29年出水期までに全109水系で公表



○住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成27年度内を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

○不動産関連事業者への説明会の実施
⇒水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

事前の行動計画、訓練

○避難に着目したタイムラインの策定
○首長も参加するロールプレイング形式の訓練



⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約400市町村平成32年度までに全730市町村で策定

避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供

スマホ等で取得



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信



自分のいる場所の近傍の情報



⇒平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置
・平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

洪水を安全に流すためのハード対策

H27.12.24東北地整記者発表

平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえて設定した、堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策、侵食・洗堀対策に関し、**優先的に対策が必要な区間約162km**について、**平成32年度を目途に、今後概ね5年間で対策を実施**する。 ※優先的に対策が必要な区間約162kmは東北全体の延長。

パイピング、法すべり

↓
漏水対策(浸透含む)

L=約61km(堤防への浸透対策)

L=約63km(パイピング対策)

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊するおそれのある箇所
- ・旧河道跡等、パイピングにより堤防が崩壊するおそれのある箇所



鳴瀬川支川吉田川(宮城県)

※馬淵川は整備済み

流下能力不足

↓
堤防整備・河道掘削

L=約124km

- ・堤防高が低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所
(上下流バランスを確保しながら実施)



鬼怒川(茨城県)

※馬淵川は一日市地区が対象

水衝・洗堀

↓
侵食・洗堀対策

L=約4km

- ・河床が深掘れしている箇所や水衝部等、河岸侵食・護岸欠損のおそれがある箇所



阿武隈川支川荒川(福島県)

※馬淵川は対象無し

優先的に対策を実施する区間L=約162km

※各対策の延長は重複あり

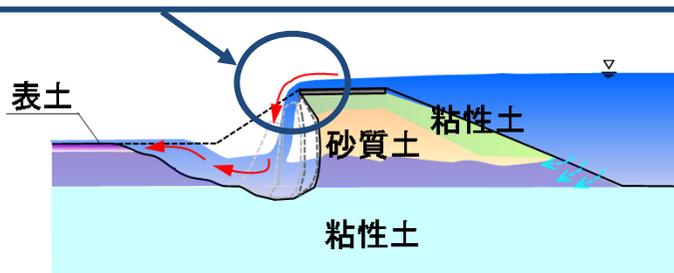
危機管理型ハード対策

H27.12.24東北地整記者発表

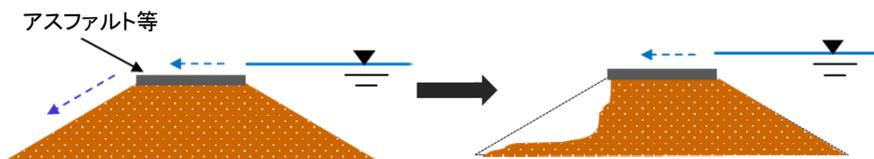
氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランス等の観点から堤防整備に至らない区間など約163kmについて、決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策を平成32年度を目途に、今後概ね5年間で実施する。

堤防天端の保護 ※馬淵川は対策済み

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



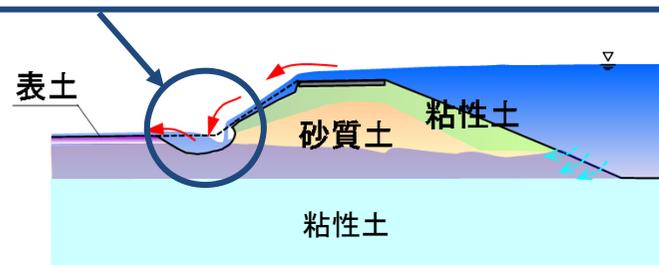
堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。



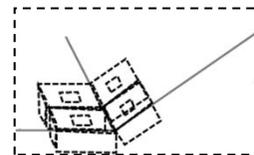
約75km

堤防裏法尻の補強 ※馬淵川は無し

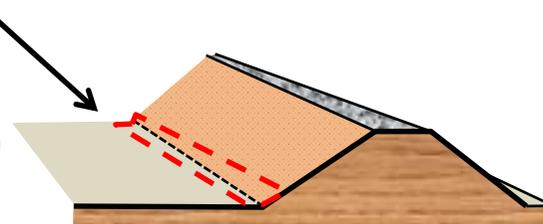
裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強



※ 具体的な工法については検討中



約106km

対策を実施する区間L=約163km

※各対策の延長は重複あり

堤防等河川管理施設の今後の整備内容 【ハード対策】

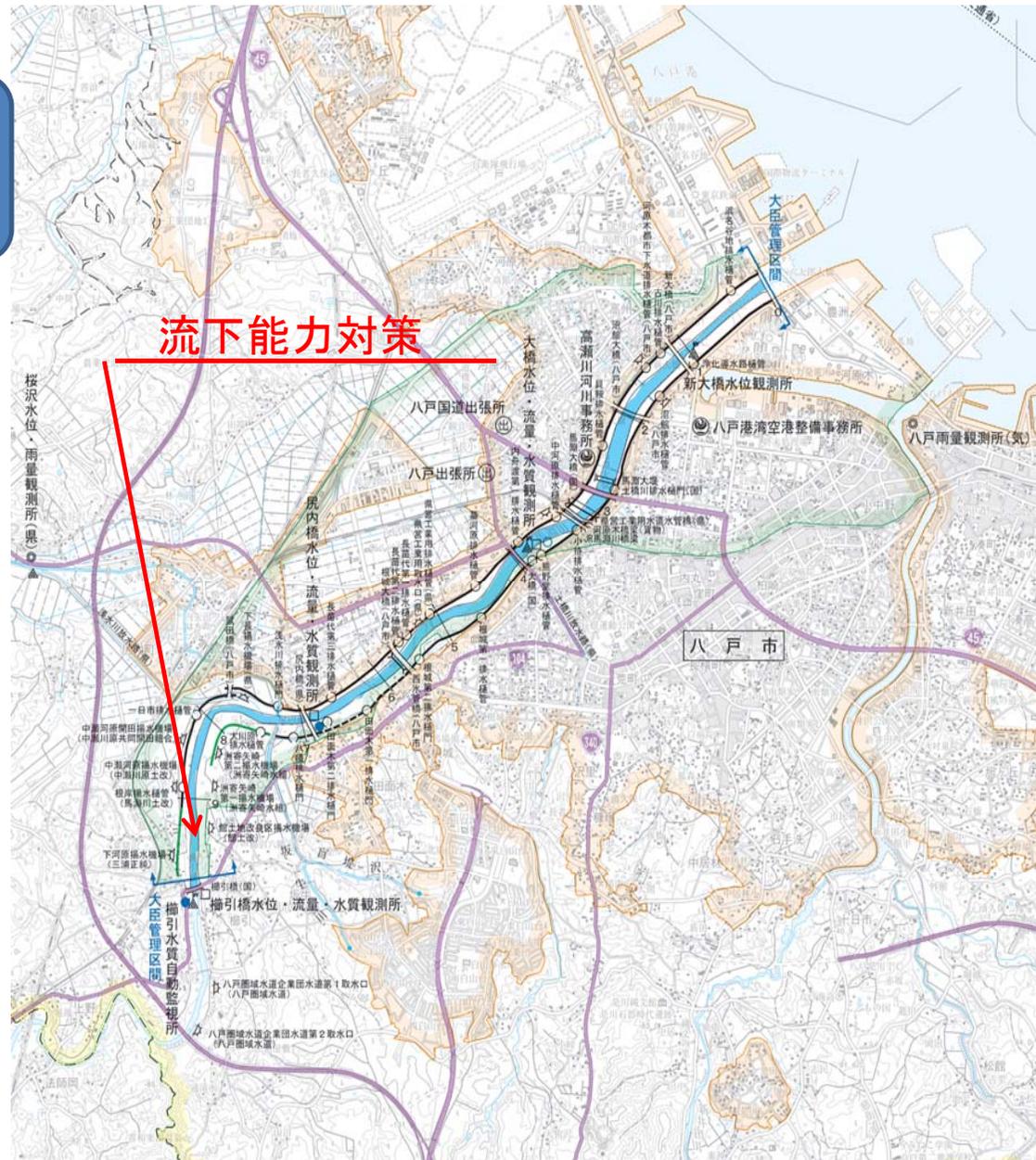
- ・「洪水を安全に流すためのハード対策」として、流下能力対策等を実施。

洪水を安全に流すための 対策概要図 ＜馬淵川＞

＜洪水を安全に流すための ハード対策＞

| 内 容 |
|--------|
| 流下能力対策 |

※具体的の実施箇所、実施期間等については、現地状況や洪水被害状況等を踏まえ必要な調査検討等を行い、実施予定



【参考】馬淵川における最近の取り組み

【馬淵川】首長を支援する緊急行動を行いました！ ～トップセミナー～

平成27年12月2日
青森河川国道

1. 経緯／概要

○平成27年9月に発生した関東・東北豪雨を踏まえ、馬淵川沿川の市町村長を対象に、避難勧告・指示の判断等に資する情報とその対応等について周知・確認を行うトップセミナーを開催した。

2. 日時／実施状況

■開催日時

平成27年12月2日（火） 9:00～

■出席者

八戸市長
八戸市防災担当職員
国土交通省青森河川国道事務所
青森地方气象台 他

（計 17名）



八戸市長（写真向い正面）との意見交換の様子



会場の様子（八戸市役所 会議室）

3. トップセミナーで出た意見・コメント等

- ・近年は異常気象の影響と思われる次元の違う降雨が各地で多発している。「人命だけはとにかく守る」ことを優先したい。
- ・危険な状況に備えて迅速な対応ができるように体制を整えることが大事である。ハザードマップ等を活用し住民周知するとともにタイムラインを含めて備える予定である。

【馬淵川】地域住民を支援する緊急行動を行いました！ ～共同点検～

平成27年12月2日
青森河川国道

1. 経緯／概要

○馬淵川の堤防が決壊した場合に被害が想定される八戸市を対象に、住民を避難させるための洪水情報などについて、自治会、水防団、自治体の方々と意見交換を行いました。

＜ 参加者数 : 合計約20名 ＞

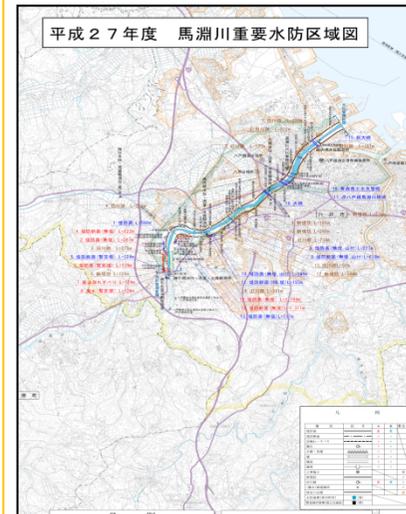
2. 日時／実施状況



共同点検参加者への現地説明状況

説明者：
青森河川国道副所長

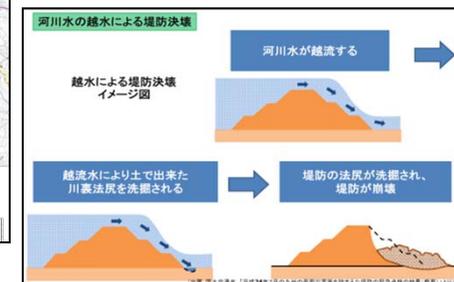
3. 説明内容



○重要水防箇所の内容



○馬淵川の主要な洪水



○堤防決壊のメカニズム

4. 意見交換会での主な意見等

・防災を考える上では住民と連携して行動する必要がある。八戸市では連合町内会を組織し防災強化の取り組みを実施しているところである。